

資 料

富山県のトンボ（2021年記録）

二橋 亮¹⁾, 二橋 弘之²⁾, 新堀 修³⁾,
中田 達哉⁴⁾, 不破 光大⁵⁾, 岩田 朋文⁶⁾

¹⁾ 産業技術総合研究所

305-8566 茨城県つくば市東 1-1-1 産総研中央第6

²⁾ 939-0234 富山県射水市二口2936

³⁾ 939-2255 富山県富山市長附648-2

⁴⁾ 935-0113 氷見市惣領2172

⁵⁾ 魚津水族館 937-0857 富山県魚津市三ヶ1390

⁶⁾ 富山市科学博物館 939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

The Dragonflies and Damselflies of Toyama Prefecture, Central Honshu, Japan in 2021

Ryo Futahashi¹⁾, Hiroyuki Futahashi²⁾,
Osamu Shimbori³⁾, Tatsuya Nakada⁴⁾,
Mitsuhiro Fuwa⁵⁾, and Tomofumi Iwata⁶⁾

¹⁾ National Institute of Advanced Industrial Science
and Technology (AIST), Central 6, Tsukuba,
Ibaraki 305-8566, Japan

²⁾ 2936, Futakuchi, Imizu-shi, Toyama 939-0234, Japan

³⁾ 648-2, Nagatsuki, Toyama-shi, Toyama 939-2255, Japan

⁴⁾ 2172, Soryo, Himi-shi, Toyama 935-0113, Japan

⁵⁾ Uozu Aquarium, 1390, Sanga, Uozu-shi, Toyama
937-0857, Japan

⁶⁾ Toyama Science Museum, 1-8-31 Nishinakano-
machi, Toyama 939-8084, Japan

Our collection and photograph data of dragonflies and damselflies from Toyama Prefecture in 2021 are reported. 77 species from 12 families were found in 2021. For each species, the present state of distribution is introduced. The following 12 species were not found in 2021 (the last collection year in parenthesis); *Anax ephippiger* (2019), *Anax guttatus* (2005), *Nihonogomphus viridis* (2006), *Shaogomphus postocularis* (1972), *Sympetrum fonscolombii* (2018), *Sympetrum danae* (2001), *Sympetrum depressiusculum* (2011), *Sympetrum striolatum* (2013), *Sympetrum vulgatum* (2005),

Sympetrum cordulegaster (2020), *Tramea virginia* (2020), and *Tholymis tillarga* (2007).

はじめに

著者らは、富山県のトンボ類を継続的に調査しており、2020年度までの記録を報告している（二橋ほか, 2004, 2008, 2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015, 2016, 2017, 2018, 2019, 2020, 2021; 二橋・二橋, 2005, 2006, 2007, 2009）。ここでは、2021年（調査日数: 二橋 210日, 新堀165日）に得られた知見をふまえて、各種の県内における生息状況について解説する。学名と種の配列は、尾園ほか（2022）に従った。また、2004～2006年にかけての市町村合併前の旧市町村をカッコ付けで記し、以前の文献との比較のために生息状況は旧市町村単位で解説した。なお、2021年の採集・撮影データの一覧は、補足データに掲載した（DOI: 10.6084/m9.figshare.19931906）。報告に先立ち、貴重なデータをご提供いただいた志村幸光、齋藤真里、二橋征史、不破壮真、不破唯央利、不破日向の各氏、調査に同行いただいた二橋奈津子、二橋直輝の各氏に厚くお礼申し上げる。

2021年の調査では12科77種のトンボが確認された。一方、県内で40年以上記録が途絶えているホンサナエ、遠方からの飛来種であるヒメギンヤンマ、オオギンヤンマ、スナアカネ、タイリクアカネ、イソアカネ、オナガアカネ、ハネビロトンボ、アメイトトンボ、生息地を未調査のムツアカネ、県内での最近の記録が少ないアオサナエ、タイリクアカネの12種は確認されなかった。

旧市町村単位の初記録は、滑川市のモートンイトトンボ、魚津市のマダラヤンマ、ヤマサナエ、初見日の更新は、キイトトンボ（5月15日）、オオイトトンボ（4月22日）、アオモンイトトンボ（4月16日）、アジイトトンボ（3月15日）、ムカシトンボ（4月7日）、カトリヤンマ（7月13日）、ヒメサナエ（6月13日）、ムカシヤンマ（4月25日）、コヤマトンボ（5月11日）、ミヤマアカネ（6月20日）、コシアキトンボ（5月12日）の11種、終見日の更新は、カトリヤンマ（11月19日）の1種であった。富山県における市町村別（旧市町村区分を含む）記録表と成虫の発消長を表1および表2に示した。

富山県における生息状況および2021年の知見

アオイトトンボ科 Lestidae Calvert, 1901

1. オツネイトンボ *Sympetma paedisca* (Brauer, 1877)

海岸沿いの湿地を中心に県内8市町から記録があるが、朝日町境の生息地が2009年に埋め立てられた後は、発生地が知られていない。2021年は射水市（新湊市）海竜町で数個体が

確認された（図1）。

2. ホソミオツネトンボ *Indolestes peregrinus* (Ris, 1916)

平地から山地の湿地や池沼、河川敷に生息し、県内では魚津市以西の27市町村から記録されているが、多産地は比較的に限られる。2021年は3月29日に産卵が確認されたが、これは県内における産卵初見日にあたる（図2）。

3. アオイトトンボ *Lestes sponsa* (Hansemann, 1823)

平地から山地の湿地や池沼に生息し、県内では井波町、井口村、舟橋村を除く32市町村から記録されているが、多産地は比較的に限られる。

4. オオアオイトトンボ *Lestes temporalis* Selys, 1883

平地から山地の周囲に樹林のある湿地や池沼、水田に生息する。県内に広く生息し、舟橋村を除く34市町村から記録されている。

カワトンボ科 Calopterygidae Selys, 1850

5. ニホンカワトンボ *Mnais costalis* Selys, 1869

県内では黒部市以西の丘陵地の河川を中心に27市町村から記録されている。県内では基本的に橙色翅のみが出現するが、まれに無色翅や淡橙色翅が記録され、2021年にも1個体記録された（図3）。上市町野島では、秋に羽化する個体が時々確認される（図4）。

6. アサヒナカワトンボ *Mnais pruinosa* Selys, 1853

丘陵地から山地の河川に広く生息し、県内では丘陵地が存在しない新湊市、下村、大島町、舟橋村を除く31市町村から記録されている。県内では基本的に無色翅のみが出現するが、まれに橙色翅が記録される。

7. ミヤマカワトンボ *Calopteryx cornelia* Selys, 1853

低山地の河川に広く生息し、県内29市町村から記録されている。

8. ハグロトンボ *Atrocalopteryx atrata* Selys, 1853

平地から低山地の河川に広く生息し、県内では上平村を除く34市町村から記録されている。

モノサシトンボ科 Platycnemididae Tillyard et Fraser, 1938

9. モノサシトンボ *Pseudocopteryx annulata* (Selys, 1863)

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し、県内29市町村から記録されているが、近年減少傾向にあり、

多産地は比較的に限られる。

イトトンボ科 Coenagrionidae Kirby, 1890

10. キイトトンボ *Ceriagrion melanurum* Selys, 1876

平地から山地の湿地や池沼に広く生息し、県内では舟橋村を除く34市町村から記録されている。

11. エゾイトトンボ *Coenagrion lanceolatum* (Selys, 1872)

丘陵地から山地の池沼に生息し、県内では新湊市、下村、大島町、滑川市、舟橋村を除く30市町村から記録されている。

12. クロイトトンボ *Paracercion calamorum* (Ris, 1916)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内では上平村を除く34市町村から記録されている。

13. セスジイトトンボ *Paracercion hieroglyphicum* (Brauer, 1865)

平地から丘陵地の用水路や池沼に生息し、県内では19市町村から記録されているが、多産地はかなり限られる。

14. オオイトトンボ *Paracercion sieboldii* (Selys, 1876)

平地から丘陵地の湿地や池沼に生息し、県内では利賀村、平村、上平村、新湊市、舟橋村を除く30市町村から記録されている。氷見市惣領ではクロイトトンボのように後頭条のない個体が雌雄ともに確認された（図5）。

15. ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

海岸沿いの池沼を中心に県内7市町から記録があるが、散發的な記録が多く、2021年は射水市（新湊市）海王町および海竜町からのみ確認された。

16. モートンイトトンボ *Mortonagrion selenion* (Ris, 1916)

平地から丘陵地の湿地や水田に生息し、県内では24市町村から記録されているが、確実な発生地は少ない。滑川市からは初記録であるが、同地では2018年にも確認されていた（図6）。

17. アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842)

海岸沿いの池沼や河川敷を中心に県内20市町村から記録がある。

18. アジイトンボ *Ischnura asiatica* (Brauer, 1865)

平地から山地の池沼や湿地、河川敷に広く生息し、県内では平村、上平村を除く33市町村から記録されている。2021年は射水市（新湊市）海竜町で3月15日に未成熟♂が確認されたが（二橋・二橋, 2022）、これは本種の本州における初見記録と思われる（二橋, 2014）、成虫越冬種を除く県内でのトンボの初見記録である（図7）。

ムカシトンボ科 *Epiophlebiidae* Muttkowski, 1910

19. ムカシトンボ *Epiophlebia superstes* (Selys, 1889)

丘陵地から山地の溪流に生息し、県内18市町村から記録されている。2021年は例年よりもおよそ2～3週間早い4月7日に羽化が確認された（図8）。

ヤンマ科 *Aeshnidae* Rambur, 1842

20. サラサヤンマ *Sarasaeschna pryeri* (Martin, 1909)

丘陵地の湿地に主に生息し、県内では29市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

21. コシボソヤンマ *Boyeria maclachlani* (Selys, 1883)

丘陵地の周囲に樹林のある河川に主に生息し、県内24市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

22. ミルンヤンマ *Planaeschna milnei* (Selys, 1883)

丘陵地から山地の河川に広く生息し、県内では丘陵地が存在しない新湊市、下村、大島町、舟橋村を除く31市町村から記録されている。

23. アオヤンマ *Aeschnophlebia longistigma* Selys, 1883

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内24市町村から記録されているが、多産地はかなり限られる。黒部市吉田ではYKKセンターパーク敷地内で確認された。射水市（新湊市）海王町ではクモを狩る個体が撮影された（図9）。

24. ネアカヨシヤンマ *Aeschnophlebia anisoptera* Selys, 1883

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内9市町から記録されているが、かつて多産していた氷見市では記録が途絶え、2021年は射水市（新湊市）海王町で少数が確認されたのみである（図10）。

25. カトリヤンマ *Gynacantha japonica* Bartenev, 1910

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内から確実な記録があるのは7市町であるが、最近では八尾町と大沢野町の一部で確認されているのみである。2021年は終見記録よりも遅い11月21日にも1♂1♀が目撃された。

26. マルタンヤンマ *Anaciaeschna martini* (Selys, 1897)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内では利賀村、上平村、舟橋村を除く32市町村から記録されているが、確実な発生地は限られる。

27. ヤブヤンマ *Polycanthagyna melanictera* (Selys, 1883)

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や湿地、河川敷に生息し、県内では下村、大島町、舟橋村を除く32市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

28. マダラヤンマ *Aeshna mixta* Latreille, 1805

海岸沿いの池沼や河川敷を中心に県内15市町村から記録があるが、現在の確実な発生地は非常に限られる。魚津市からは初記録である（図11）。

29. オオルリボシヤンマ *Aeshna crenata* Hagen, 1856

丘陵地から山地の池沼に主に生息し、県内では下村と舟橋村を除く33市町村から記録されている。

30. ルリボシヤンマ *Aeshna juncea* (Linnaeus, 1758)

丘陵地から山地の池沼や湿地に主に生息し、県内では新湊市、下村、大島町、舟橋村を除く31市町村から記録されている。

31. ヒメギンヤンマ *Anax ephippiger* (Burmeister, 1839)

遠方からの飛来種で、県内では2019年に射水市で1♂が採集されたのみである。

32. ギンヤンマ *Anax parthenope* (Selys, 1839)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内では平村と上平村を除く33市町村から記録されている。2021年は終見記録よりも遅い12月11日に本種と思われる1個体が目撃された。

33. クロスジギンヤンマ *Anax nigrofasciatus* Oguma, 1915

平地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内では舟橋村を除く34市町村から記録されている。

34. オオギンヤンマ *Anax guttatus* (Burmeister, 1839)

遠方からの飛来種で、県内28市町村から記録されているが、1998年以外の確認例は少なく2021年には未確認である。

サナエトンボ科 *Gomphidae* Rambur, 1842

35. ウチワヤンマ *Sinictinogomphus clavatus* (Fabricius, 1775)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内19市町から記録され

ている。射水市（新湊市）海竜町ではひの単独移精行動が撮影された（図12）。

36. コオニヤンマ *Sieboldius albardae* Selys, 1886

丘陵地から山地の河川に広く生息し、県内では丘陵地が存在しない新湊市、下村、大島町、舟橋村を除く31市町村から記録されている。

37. オナガサナエ *Melligomphus viridicostus* (Oguma, 1926)

丘陵地の河川を中心に生息し、県内15市町村から記録されている。県内では1959年以降、長らく記録が途絶えていたが、2016年以降、確認記録が相次いでいる。石川県でも長らく記録が途絶えていたが、南部で確認記録が増えている。

38. アオサナエ *Nihonogomphus viridis* Oguma, 1926

県内では小矢部市と高岡市（福岡町）の子撫川流域で確認されていたが、2006年を最後に記録が途絶えている。

39. クロサナエ *Davidius fujiama* Fraser, 1936

丘陵地から山地の河川に生息し、県内25市町村から記録されている。

40. ダビドサナエ *Davidius nanus* (Selys, 1869)

丘陵地から低山地の河川に生息し、県内26市町村から記録されている。

41. モイワサナエ（ヒラサナエ） *Davidius moiwanus* (Okumura, 1935)

県西部の丘陵地の小河川から局所的に確認されており、5市町から記録されている。

42. ヒメクロサナエ *Lanthus fujiacus* (Fraser, 1936)

県内の丘陵地から山地の河川源流域に生息し、25市町村から記録されている。

43. ヒメサナエ *Sinogomphus flavolimbatus* (Oguma, 1926)

県内では富山市（大沢野町）須原周辺で少数個体が記録されているのみで、2021年には県内初の♀が撮影された（図13）。

44. オジロサナエ *Stylogomphus suzukii* (Oguma, 1926)

県内では丘陵地の小河川に生息し、7市町村から記録されているが産地は非常に限られる。

45. コサナエ *Trigomphus melampus* (Selys, 1869)

県内の丘陵地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、27市

町村から記録されている。

46. ミヤマサナエ *Anisogomphus maacki* (Selys, 1872)

県内の平地から山地の河川に生息し、28市町村から記録されているが、多産地は限られる。

47. ホンサナエ *Shaogomphus postocularis* (Selys, 1869)

県内では高岡市、富山市、婦中町、大沢野町、上市町の5市町から記録されているが、1972年を最後に確認されていない。新潟県では個体数が回復傾向にあることから（佐藤, 2020）、県内でも再発見が期待される。

48. キイロサナエ *Asiagomphus pryeri* (Selys, 1883)

県内では氷見市、福光町、大門町、小杉町、婦中町の5市町から記録されているが、現在の確実な発生地は小杉町の一部のみである。

49. ヤマサナエ *Asiagomphus melaenops* (Selys, 1854)

県内の丘陵地の河川を中心に生息し、23市町村から記録されている。魚津市からは初記録である（図14）。

ムカシヤンマ科 *Petaluridae* Needham, 1901

50. ムカシヤンマ *Tanypteryx pryeri* (Selys, 1889)

丘陵地から山地の周囲に樹林のある湿地や水の滲みだす斜面に生息し、県内29市町村から記録されている。2021年は初見記録よりも早い4月24日に羽化殻が確認された。

オニヤンマ科 *Cordulegastridae* Banks, 1892

51. オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* (Selys, 1854)

平地から山地の細流に広く生息し、県内全35市町村から記録されている。

エゾトンボ科 *Corduliidae* Selys, 1871

52. カラカネトンボ *Cordulia amurensis* Selys, 1887

山地の池沼に生息し、県内6町村から記録されているが、産地はかなり局所的である。

53. トラフトンボ *Epithea marginata* (Selys, 1883)

丘陵地の池沼に主に生息し、県内22市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

54. タカネトンボ *Somatochlora uchidai* Forster, 1909

丘陵地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内では新湊市、下村、舟橋村を除く32市町村から記録されている。

55. エソトンボ *Somatochlora viridiaenea* (Uhler, 1858)
丘陵地から山地の周囲に樹林のある湿地に主に生息し、県内27市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

56. ハネヒロエソトンボ *Somatochlora clavata* Oguma, 1913

丘陵地から山地の周囲に樹林のある細流に生息し、県内7市町から記録されているが、産地は非常に限られる。

ヤマトンボ科 *Macromiidae* Tillyard, 1917

57. オオヤマトンボ *Epophthalmia elegans* (Brauer, 1865)
平地から丘陵地の池沼に生息し、県内では利賀村、上平村、滑川市を除く32市町村から記録されている。

58. コヤマトンボ *Macromia amphigena* Selys, 1871
平地から低山地の河川や池沼に生息し、県内では新湊市、下村、舟橋村を除く32市町村から記録されている。

トンボ科 *Libellulidae* Selys, 1840

59. チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* Selys, 1883
平地から低山地の池沼に生息し、県内26市町村から記録されている。

60. カオジロトンボ *Leucorrhinia dubia* (Vander Linden, 1825)
高層湿原に生息し、県内では利賀村、八尾町、大山町、立山町、宇奈月町の5町村から記録されている。

61. スナアカネ *Sympetrum fonscolombii* (Selys, 1840)
大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内9市町から記録されているが2021年には未確認である。

62. ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* (Selys, 1883)
平地から低山地の水田や湿地、池沼に生息し、県内全35市町村から記録されているが、2000年代以降、個体数が減少している。

63. リスアカネ *Sympetrum risi* Bartenev, 1914
平地から山地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し、県内からは下村と舟橋村を除く33市町村から記録されている。富山市（八尾町）西神通ではA型3連結が撮影された（図15）。

64. ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* (Selys, 1883)
平地から山地の水田や池沼、湿地に生息し、県内全35市町村から記録されているが、2000年代以降、個体数が減少して

いる。

65. ムツアカネ *Sympetrum danae* (Sulzer, 1776)
県内では2001年に富山市（大山町）高天原周辺に生息することが確認されたが、その後は報告されていない。

66. アキアカネ *Sympetrum frequens* (Selys, 1883)
平地から低山地の水田や湿地、池沼に生息し、県内全35市町村から記録されている。1998年を境に個体数が激減したが、2010年以降はやや回復傾向がみられる。上市町館では1個体の♀に2個体の♂が同時に連結するY型3連結と思われる例が撮影された（図16）。

67. タイリクアキアカネ *Sympetrum depressiusculum* (Selys, 1841)
大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内25市町から記録されているが、北陸地方では近年ほとんど確認されなくなり、県内では2011年を最後に確認されていない。

68. タイリクアカネ *Sympetrum striolatum* (Charpentier, 1840)
県内では氷見市、高岡市、新湊市の3市の海岸沿いの湿地から記録されているが、2013年を最後に確認されていない。北陸地方では能登島周辺に多産していたが、近年激減しており、現在の確実な発生地は不明である。

69. イソアカネ（マンシュウアカネ） *Sympetrum vulgatum* (Linnaeus, 1758)
大陸からの飛来種で、氷見市、高岡市、新湊市、朝日町の4市町の海岸沿いの湿地から記録されているが、2005年を最後に確認されていない。

70. コノシメトンボ *Sympetrum baccha* (Selys, 1884)
平地から山地の水田や池沼、湿地に生息し、県内では井口村、城端町、平村、上平村、舟橋村を除く30市町村から記録されている。

71. ヒメアカネ *Sympetrum parvulum* (Bartenev, 1913)
平地から山地の周囲に樹林のある湿地に生息し、県内28市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

72. マユタテアカネ *Sympetrum eroticum* (Selys, 1883)
平地から山地の周囲に樹林のある池沼や河川敷に生息し、県内全35市町村から記録されているが、近年減少傾向にあり、多産地は比較的限られる。

73. マイコアカネ *Sympetrum kunckeli* (Selys, 1884)

平地から丘陵地の池沼や湿地に生息し、県内18市町村から記録されているが、産地は限られる。黒部市吉田ではYKKセンターパーク敷地内の池で発生している。

74. ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* (Müller in Allioni, 1766)

平地から山地の水田や細流、河川敷に生息し、県内29市町村から記録されている。県西部では産地が局所的であるが、県東部では2000年代以降に確認例が増加した。

75. オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster* (Selys, 1883)

大陸からの飛来種で、海岸沿いの湿地を中心に県内19市町村から記録されているが、2021年には未確認である。

76. ネキトンボ *Sympetrum speciosum* Oguma, 1915

平地から山地の周囲に樹林のある池沼に主に生息し、県内では舟橋村を除く34市町村から記録されている。

77. キトンボ *Sympetrum croceolum* (Selys, 1883)

平地から低山地の池沼に生息し、県内26市町村から記録されている。1990年代には稀種であったが、2000年代に個体数がやや回復した。

78. ハネビロトンボ *Tramea virginia* (Rambur, 1842)

南方からの飛来種で、県内8市町から記録されているが、2021年には未確認である。

79. コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* (Burmeister, 1839)

平地から丘陵地の周囲に樹林のある池沼に生息し、県内では平村と上平村を除く33市町村から記録されている。

80. コフキトンボ *Deielia phaon* (Selys, 1883)

平地から丘陵地の池沼に生息し、県内29市町村から記録されている。

81. アメイロトンボ *Tholymis tillarga* (Fabricius, 1798)

南方からの飛来種で、県内では2007年に氷見市宮田から記録されたのみである。

82. ハッチョウトンボ *Nannophya pygmaea* Rambur, 1842

平地から山地の周囲に樹林のある湿地に生息し、県内29市町村から記録されているが、産地は比較的限られる。

83. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* (Drury, 1773)

平地から山地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内全35市町村から記録されている。

84. ウスパキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius, 1798)

南方からの飛来種で、初夏から秋にかけては水田や湿地で一時的に発生する。県内全35市町村から記録されている。2021年は初見記録よりも早い4月19日に1個体が目撃された。

85. ハラビロトンボ *Lyriothemis pachygastra* (Selys, 1878)

平地から丘陵地の池沼や湿地、河川敷に生息し、県内では庄川町、上平村、下村、大島町を除く31市町村から記録されている。県内では2000年に初めて記録された後に、産地・個体数ともに急速に増えている。

86. シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* (Selys, 1848)

平地から山地の池沼や湿地、水田、河川敷などに生息し、県内全35市町村から記録されている。

87. シオヤトンボ *Orthetrum japonicum* (Uhler, 1858)

平地から山地の周囲に樹林のある湿地や水田などに生息し、県内では新湊市、下村、大島町、舟橋村を除く31市町村から記録されている。

88. オオシオカラトンボ *Orthetrum melania* (Selys, 1883)

平地から山地の周囲に樹林のある池沼や湿地、河川敷などに生息し、県内全35市町村から記録されている。

89. ヨツボシトンボ *Libellula quadrimaculata* Linnaeus, 1758

平地から山地の池沼や湿地に生息し、県内では下村と舟橋村を除く33市町村から記録されている。

表1 富山県市町村別トンボ類記録表。●：1994年以降の記録 ▲：1993年以前の記録 市町村平均：59.8種

[illegible]

表2 富山県産トンボ類成虫の発生消長。

種 名	1月 上 中 下	2月 上 中 下	3月 上 中 下	4月 上 中 下	5月 上 中 下	6月 上 中 下	7月 上 中 下	8月 上 中 下	9月 上 中 下	10月 上 中 下	11月 上 中 下	12月 上 中 下	初見	終見
1. オツネトンボ													7.8	6.5
2. ホソオツネトンボ													6.19	7.18
3. アオイトトンボ													5.18	11.8
4. オオアオイトトンボ													5.29	12.13
5. ニホンカワトンボ													4.3	12.2
6. アサヒナカワトンボ													4.4	8.20
7. ミヤマカワトンボ													5.4	10.4
8. ハグロトンボ													5.16	11.5
9. モノサシトンボ													5.14	10.26
10. キイトトンボ													5.15	11.6
11. エゾイトトンボ													4.14	8.22
12. クロイトトンボ													4.23	10.24
13. セスジイトトンボ													4.29	11.8
14. オオイトトンボ													4.22	10.26
15. ムスジイトトンボ													5.13	10.22
16. モーティイトトンボ													5.5	8.13
17. アオモンイトトンボ													4.16	12.11
18. アジアイトトンボ													3.15	12.11
19. ムカシトンボ													4.7	6.17
20. サラサヤンマ													4.29	8.7
21. コシボソヤンマ													6.27	10.28
22. ミルンヤンマ													6.29	12.1
23. アオヤンマ													4.29	10.18
24. ネアカヨシヤンマ													5.26	9.30
25. カトリヤンマ													7.13	11.19
26. マルタンヤンマ													6.5	10.31
27. ヤブヤンマ													5.26	10.2
28. マダラヤンマ													8.29	11.4
29. オオルリボシヤンマ													6.27	11.10
30. ルリボシヤンマ													6.27	11.15
31. ヒメギンヤンマ													10.22	10.22
32. ギンヤンマ													4.19	11.13
33. クロスジギンヤンマ													4.17	10.13
34. オオギンヤンマ													8.18	11.15
35. ウチワヤンマ													6.1	9.17
36. コオニヤンマ													5.30	10.12
37. オナガサナエ													6.3	10.11
38. アオサナエ													5.28	7.31
39. クロサナエ													4.26	8.12
40. ダビドサナエ													4.15	7.20
41. モイワサナエ (ヒラサナエ)													4.9	7.7
42. ヒメクロサナエ													4.20	8.6
43. ヒメサナエ													6.13	8.19
44. オジロサナエ													6.5	9.22
45. コサナエ													4.9	7.18
46. ミヤマサナエ													4.19	10.30
47. ホンサナエ													5.17	6.1
48. キイロサナエ													5.14	8.1
49. ヤマサナエ													4.3	8.14
50. ムカシヤンマ													4.25	11.5
51. オニヤンマ													5.3	11.8
52. カラカネトンボ													5.24	8.22
53. トラフトンボ													4.20	6.30
54. タカネトンボ													6.9	11.5
55. エゾトンボ													5.17	10.29
56. ハネビロエゾトンボ													7.29	10.17
57. オオヤマトンボ													5.11	10.11
58. コヤマトンボ													5.11	9.11
59. チョウトンボ													5.30	10.14
60. カオジロトンボ													5.31	9.8
61. スナアカネ													5.30	11.21
62. ナツアカネ													6.10	12.9
63. リスアカネ													6.8	12.4
64. ノシメトンボ													6.5	12.3
65. ムツアカネ													8.1	9.8
66. アキアカネ													6.5	1.19
67. タイリクアキアカネ													6.18	11.24
68. タイリクアキアカネ													6.16	11.12
69. イソアカネ (マンシュウアカネ)													9.23	10.21
70. コノシメトンボ													6.17	12.22
71. ヒメアカネ													6.22	12.14
72. マユタテアカネ													6.13	12.9
73. マイコアカネ													6.24	12.1
74. ミヤマアカネ													6.20	12.16
75. オナガアカネ													6.18	11.28
76. ネキトンボ													5.23	11.21
77. キトンボ													6.19	12.29
78. ハネビロトンボ													7.18	9.10
79. コシアキトンボ													5.12	10.23
80. コフキトンボ													5.15	10.11
81. アメイロトンボ													7.24	8.17
82. ハツチョウトンボ													5.3	10.29
83. ショウジョウトンボ													4.26	12.6
84. ウスバキトンボ													4.27	11.13
85. ハラビロトンボ													4.25	10.13
86. シオカラトンボ													4.20	11.17
87. シオヤトンボ													4.3	7.26
88. オオシオカラトンボ													5.22	11.19
89. ヨツボシトンボ													4.12	8.8
*1. ギンヤンマ×クロスジギンヤンマ													6.11	9.27
*2. アキアカネ×タイリクアキアカネ													6.18	10.26
*3. マユタテアカネ×コノシメトンボ													8.1	11.4
*4. マユタテアカネ×マイコアカネ													8.6	12.1
合 計	1 1	0 0	1 2 3	9 18 27	31 54 67	72 72 72	72 73 73	66 62 62	60 61 61	54 48 48	38 20 20	16 8 4		

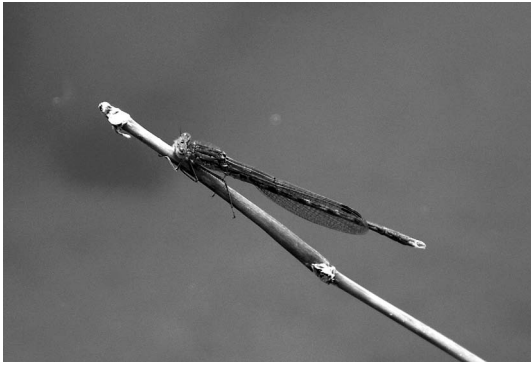


図1：オツネトンボ♂ 射水市（新湊市）海竜町 2021年5月14日(二橋弘之 撮影)。

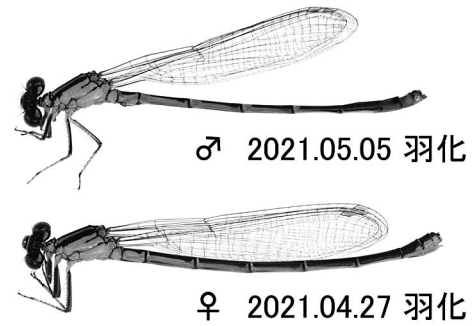


図5：頭部の後頭条を欠くオオイトトンボ 氷見市惣領 2021年4月15日 幼虫(不破光大 採集)。



図2：3月下旬のホソミオツネトンボ産卵 射水市（小杉町）西谷 2021年3月29日(新堀 修 撮影)。



図6：滑川市初記録のモートンイトトンボ2♂ 滑川市魚躬 2018年6月14日(不破光大 撮影)。

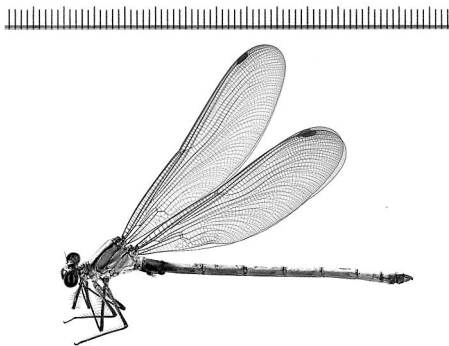


図3：ニホンカワトンボ淡橙色翅♂ 滑川市上小泉 2021年5月15日(二橋弘之 採集)。



図7：3月中旬のアジイトトンボ♂ 射水市（新湊市）海竜町 2021年3月15日(二橋弘之 撮影)。



図4：ニホンカワトンボ未成熟♀ 上市町野島 2021年10月27日(二橋弘之 撮影)。



図8：4月上旬のムカシトンボ♀羽化 上市町浅生 2021年4月7日(新堀 修 撮影)。



図9：クモを狩るアオヤンマ♀ 射水市(新湊市)海王町 2021年7月10日(中田達哉 撮影)。



図13：ヒメサナエ♀ 富山市(大沢野町)長川原 2021年6月13日(新堀 修 撮影)。



図10：ネアカヨシヤンマ♀ 射水市(新湊市)海王町 2021年8月21日(中田達哉 撮影)。



図14：魚津市初記録のヤマサナエ♂ 魚津市鹿熊 2021年6月6日(新堀 修 撮影)。



図11：魚津市初記録のマダヤンマ♂ 魚津市寿町 2021年9月20日(中田達哉 撮影)。



図15：リスアカネA型3連結 富山市(八尾町)西神通 2021年10月5日(新堀 修 撮影)。



図12：ウチワヤンマ♂の単独移精 射水市(新湊市)海竜町 2021年8月18日(二橋弘之 撮影)。



図16：アキアカネY型3連結 上市町館 2021年11月28日(新堀 修 撮影)。

引用文献

- 二橋弘之・二橋亮, 2022. 富山県射水市で3月15日にアジイトトンボを確認. *Aeschna*, (58): 90.
- 二橋 亮, 2014. 日本産トンボ類の成虫の出現期および初見・終見記録. *Aeschna*, (50): 145-181.
- 二橋 亮・二橋弘之, 2005. 富山県のトンボ (2004年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (28): 97-107.
- 二橋 亮・二橋弘之, 2006. 富山県のトンボ (2005年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (29): 137-145.
- 二橋 亮・二橋弘之, 2007. 富山県のトンボ (2006年度記録). 富山市科学文化センター研究報告, (30): 127-137.
- 二橋 亮・二橋弘之, 2009. 富山県のトンボ (2008年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (32): 143-154.
- 二橋 亮・二橋弘之・荒木克昌・根来 尚, 2004. 富山県のトンボ. 富山市科学文化センター収蔵資料目録, (17): 1-220.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2010. 富山県のトンボ (2009年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (33): 129-145.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2011. 富山県のトンボ (2010年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (34): 159-175.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2016. 富山県のトンボ (2015年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (40): 103-126.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修, 2017. 富山県のトンボ (2016年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (41): 87-111.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・岩田朋文, 2018. 富山県のトンボ (2017年記録). 富山市科学博物館研究報告, (42): 83-101.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2012. 富山県のトンボ (2011年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (36): 27-53.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2013. 富山県のトンボ (2012年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (37): 127-147.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2014. 富山県のトンボ (2013年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (38): 143-163.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・川村日出男, 2015. 富山県のトンボ (2014年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (39): 105-124.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・不破光大・岩田朋文, 2021. 富山県のトンボ (2020年度記録). 富山市科学博物館研究報告, 45: 85-105.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・岩田朋文, 2019. 富山県のトンボ (2018年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (43): 87-99.
- 二橋 亮・二橋弘之・新堀 修・中田達哉・岩田朋文, 2020. 富山県のトンボ (2019年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (44): 83-101.
- 二橋 亮・二橋弘之・和田茂樹, 2008. 富山県のトンボ (2007年度記録). 富山市科学博物館研究報告, (31): 141-156.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮, 2022. ネイチャーガイド 日本のトンボ 改訂第2版. 532 pp., 文一総合出版.
- 佐藤良次, 2020. 文献から見た新潟県のトンボ相 (追補). 越佐昆虫同好会特別報告, 7: 1-55.